

令和7年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立墨江丘中学校

令和8年2月

(様式1)

大阪市立墨江丘中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 全国、府、市が主催となる学力テストにおいて、ここ数年大阪市平均レベルを上下する程度にとどまっている。当然個々の課題もあるが、全体的にはこの数年、国語の読解力が低迷している。そのことは、他教科にも少なからず影響している。基礎学力が定着していない層も増えつつあり、一定の実力のある層との2極化も進みつつある。ある程度実力のある層に対しても、課題である読解力アップや更なる学力向上を目指し様々な取り組みを展開する必要がある。そのために、ICTを活用した授業の在り方を通して、思考力・判断力・表現力を高め、わかりやすい授業を展開する。校内テストで採点支援システムを活用し、様々な角度から生徒一人ひとりの弱点を明確にし、授業改善に努めたい。
- 普段の生活では見受けられないが、昨年の校内アンケートから規範意識は高いものの、自己肯定感に低い数値が表れる。SDGsの取り組みや人権教育を通して生命の尊さや、自他の生命を尊重させる心を育て、また、社会の一員としてその文化に触れ、地域活動に参加することにより地域の方々のつながりを深めさせ、次世代の街づくり、更には地域防災へとつなげていく。
- 不登校のみならず、何らかの要因により学校へ登校しにくい生徒の個別学習環境(居場所確保)の整備にも着手しながら、既成概念にとらわれない学び方についても模索する。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。
- 校内調査において、不登校生徒の在籍比率を2.30%以下にする。
- 校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を65%以上とする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を35%以上にする。
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団においていずれの学年も1.00以上とする。
- 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を56%以上にする。
- 校内調査において「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を53.6%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ICTを活用した授業において、全教員でのべ10000時間以上とする。
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を100%とする。
- 墨江丘タイムを年間6回以上、ノー残業dayを年間10回以上とする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を **85%以上**にする。
- 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度 (**6.9%**) より減少させる。
- 校内調査において、不登校生徒改善の割合を前年度 (**24.2%**) より **1.0%**以上増加させる。
- 年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を **95.5%**以上にする。
- 以下、校内調査において肯定回答を前年度より増加させる。
 - ・「クラス・学校は楽しい」の項目について (前年度 **86.1%**)
 - ・「人それぞれの〈ちがい〉を大切にすることを学んでいる」の項目について (前年度 **96.6%**)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を **40.8%以上**にする。
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団においていずれの学年も前年度より **0.01 ポイント**向上させる。(2年 前年度 国語 **1.06** 数学 **1.17** 3年 前年度 国語 **1.04** 数学 **1.04**)年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を **54.2%以上**にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の **50%以上**にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- 年度末の校内調査における「学習している内容がわかる、理解しやすい授業だ」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を前年度 (**90.4%**) より増加させる。
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を **65%以上**にする。(昨年度 **64.2%**)

3 本年度の自己評価結果の総括

年度目標：【安全・安心な教育の推進】	
<ul style="list-style-type: none"> ● 校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合 80.2%(4.7%↓) (目標：85%以上) ● 不登校生徒の前年度との在籍比率 6.3% (0.6%↑) (R6:6.9%) ● 不登校生徒の前年度との改善割合比率 66.0% (31.5%↑) (R6:34.5%) ● 以下の生徒に対する校内調査項目における肯定回答割合の前年度との比較 <ul style="list-style-type: none"> ● 「クラス・学校は楽しい」 86.1% (±0%) (R6:86.1%) ● 「人それぞれの〈ちがひ〉を大切にすることを学んでいる」 94.5% (2.1%↓) (R6:96.6%) ● 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」 96.6% (1.2%↑) (R6:95.4%) 	
年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】	
<ul style="list-style-type: none"> ● 校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合 47.0% (6.2%↑) (目標：40.8%以上) ● 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比 2年…結果がまだ出ていない 3年…国語 1.02(0.02↓) 数学 1.02(0.02↓) (目標 2年 前年度 国語 1.06 数学 1.17 3年 前年度 国語 1.04 数学 1.04) ● 校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合 47.0% (7.2%↓) (目標：54.2%以上) 	
年度目標：【学びを支える教育環境の充実】	
<ul style="list-style-type: none"> ● 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数の割合 12月まで 42.2% (7.8%↓) (目標：50%以上) ● 校内調査における「学習している内容がわかる、理解しやすい授業だ」に対して、肯定的回答をする生徒の割合 86.3% (4.1%↓) (昨年：90.4%) ● 年次有給休暇を10日以上取得した教職員の割合 59.5%(5.5%↓) (目標：65.0%) 	

(様式2)

大阪市立墨江丘中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none">● 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を 85%以上 にする。● 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度 (6.9%) より減少させる。● 校内調査において、不登校生徒改善の割合を前年度 (24.2%) より 1.0%以上増加させる。● 年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 95.5%以上にする。● 以下、校内調査において肯定回答を前年度より増加させる。<ul style="list-style-type: none">・「クラス・学校は楽しい」の項目について (前年度 86.1%)・「人それぞれの〈ちがひ〉を大切にすることを学んでいる」の項目について (前年度 96.6%)	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【1 安心安全な教育環境の実現】</p> <p>不登校のみならず、教室で不安やストレスを感じる生徒に対して、落ち着いた空間を提供することで、学校に足を運ぶ第一歩を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none">・心理的安全を確保し、「学校＝安心できる場所」というイメージの形成を目指す。・別室であっても学校の中に身を置くことで、教職員や同級生との関わりを少しずつ持ち続けられる。 <p>「別室に通い続けること」ではなく、生徒自身が安心して自分の将来を考えることができるステップとしてファーストペンギンルームの運営をおこなう。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">● 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度 (6.9%) より減少させる。● 校内調査において、不登校生徒改善の割合を前年度 (24.2%) より 1.0%以上増加させる。	A

<p>取組内容②【1 安心安全な教育環境の実現】</p> <p>生徒間で起こる「いじめ」や「トラブル」について、確実な情報収集とともに早期解決に向け組織的に対応する。また、いじめ・命を考える日を活用して「いじめ」について全校生徒で考えることで、いじめを未然に防ぐための取り組みを入れる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を 85%以上にする。</p>	C
<p>取組内容③【2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 墨江・清水丘連合会に、生徒の防災リーダーを認定し、自主的に避難行動、地域貢献ができるように促す。またそのことにつながるよう、「命」をテーマに、防災の取り組みを各学年で構築していく。 ● いのちの教育を通じて命の大切さを学ぶ。実際に災害を経験した有識者や様々な命に関する専門家を招いて講話をする機会を作ったり、命に対して考えるきっかけになる研修・体験活動を行う。 <hr/> <p>指標</p> <p>年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 95.5%以上にする。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ● 校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合 80.2%(4.7%↓) (目標：85%以上) ● 不登校生徒の前年度との在籍比率 6.3% (0.6%↑) (R6:6.9%) ● 不登校生徒の前年度との改善割合比率 66.0% (31.5%↑) (R6:34.5%) ● 以下の生徒に対する校内調査項目における肯定回答割合の前年度との比較 <ul style="list-style-type: none"> ● 「クラス・学校は楽しい」 86.1% (±0%) (R6:86.1%) ● 「人それぞれの〈ちがい〉を大切にすることを学んでいる」 94.5% (2.1%↓) (R6:96.6%) ● 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」 96.6% (1.2%↑) (R6:95.4%) <p>① 不登校については学校全体の課題と捉え、ファーストペンギンルームの個室・フリースペースの運営方法を一新した。その結果、不登校改善率は31.5%と大幅に改善した。不登校在籍率も0.6%減少することができた。学期初めに、生活指導強調週間を行うことで、小さな積み重ねと習慣の大切さに気付かせることができた。それと同時に、教育相談を行うことで、担任と生徒一人ひとりの現状の変化、状況を丁寧に話し合うことができた。いじめアンケートを学期に1回行い、未解決を0に生徒指導を行っている。</p> <p>② 1年:10月に防災リーダーを中心に、町会ごとに地域清掃を予定。 2年:2月に区役所・消防署・地域共同の防災訓練実施予定。 3年:12月に救急救命講習を予定。</p>	

全学年：6月に東日本大震災を経験したシンガーソングライターの asari さんの講話を行った。

11月に天気予報士の蓬莱さんの災害についての講話を行った。

次年度への改善点【最終評価】

- ① 前年度に比べて、ファーストペンギンルーム（個別の学習ルーム）の活用率が大幅に増加した。来年度からは、ファーストペンギンでの過ごし方について生徒支援部で新たな体制づくりを進めていく。
- ② 5月の「いじめについて考える日」では、生徒会考案のいじめ防止の授業を全学年で行った。その後、「校内いじめアンケート」を実施。アンケート結果、気になる内容については再度、教育相談を行った。いじめや暴力行為等の根絶をめざすために、教職員全員と連携を図り、指導する必要がある。いじめについては、いじめアンケートの結果や学校全体の生徒指導をする中で、SNSによるものが増加しているので、来年度は情報モラル教育の時間を導入していく予定。

(様式2)

大阪市立墨江丘中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none">● 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を40.8%以上にする。● 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団においていずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。(2年 前年度 国語1.06 数学1.17 3年 前年度 国語1.04 数学1.04)● 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を54.2%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>総合的読解力(①情報を読み取る力、②考えを形成する力、③考えを交流する力、④考えを表現する力)を育成する授業を、年間35時間以上実施する。</p> <ul style="list-style-type: none">・全学年で総合的読解力育成カリキュラム(年間10時間程度)を実施する・全教科で言語活動(25時間以上)を充実させる・各学年で探究学習(①課題の設定、②情報の収集、③情報の整理、④まとめ・表現)の実践研究を行う。・総合的読解力育成のために、全教員が研究授業(年間1回以上)・相互授業参観(年間2回以上)を行う	A
<p>指標</p> <p>年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を前年度(40.7%)より増加させる。</p>	
<p>取組内容② 【5 健やかな体の育成】</p> <p>体育的行事の充実を図るとともに、各種目、基礎的な運動から、ゲームなどの実践的な運動を実施する。</p>	C
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">● 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を前年度(54.1%)より増加させる。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- 校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合 **47.0% (6.2%↑)** (目標：40.8%以上)
 - 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比
2年…結果がまだ出ていない 3年…国語 **1.02(0.02↓)** 数学 **1.02(0.02↓)**
(目標 2年 前年度 国語 1.06 数学 1.17 3年 前年度 国語 1.04 数学 1.04)
 - 校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合 **47.0% (7.2%↓)** (目標：54.2%以上)
- ① 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を **47.0%** であり、**目標を達成した**。総合的読解力育成カリキュラムについて、全学年で実践した。1学期に2年生の研究授業と研究協議を行った。総合的読解力（4つの力）を各教科でも育成するために、9月に全教員による研究授業を実施し、総合的読解力の育成を図った。
- ② 各種目、スポーツの歴史や成り立ち、基礎的な技能などを学ばせることができた。また、ゲームなどの実践的な運動を実施する際に、技能の差を埋めるために、アダプテーションルールやゲームの方法など、生徒が主体的に設定する機会を多く与えた。また、文化発表会の展示部門において、スポーツに関する新聞を作成することで、運動やスポーツに関する知識も主体的に学ぶ機会を与えた。年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を **47.0%** であり、**前年度 (54.1%) より下回った**。

次年度への改善点【最終評価】

- ① 総合的読解力の育成から探究学習につなげられるように、各学年による総合学習の改善と、探究するためのICT機器の活用を引き続き校内で研究していく。
- ② 継続的に運動やスポーツの知識や基礎的な技能を学ぶ機会を多く作っていくと同時に、教員や生徒が単元ごとに、最低1時間はICTを活用した授業実施していく。

(様式 2)

大阪市立墨江丘中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く〕 ● 年度末の校内調査における「学習している内容がわかる、理解しやすい授業だ」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を前年度 (90.4%) より増加させる。 ● 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 65%以上にする。(昨年度 64.2%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学習者用端末を活用する授業で、主体的・対話的な学びの在り方を研究する。 ● 大型モニター (プロジェクター) を活用した、わかりやすい授業の在り方を研究する。 	C
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く〕 ● 年度末の校内調査における「学習している内容がわかる、理解しやすい授業だ」に対して、肯定的回答をする生徒の割合を前年度 (90.4%) より増加させる。 	
<p>取組内容② 【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 墨江丘タイムの日 (年間 6 回以上) やノー残業 day (年間 12 回以上) を設定し、教職員の働き方改革をすすめる。 ● 年間の標準授業時数 (1015 時間) を大幅に上回らないように、カリキュラム・マネジメントを行う。 	B
<p>指標</p> <p>年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 65%以上にする (昨年度 64.2%)。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数の割合
12月まで **42.2% (7.8% ↓)** (目標: 50%以上)
 - 校内調査における「学習している内容がわかる、理解しやすい授業だ」に対して、肯定的回答をする生徒の割合
86.3% (4.1% ↓) (昨年: 90.4%)
 - 年次有給休暇を10日以上取得した教職員の割合 **59.5% (5.5% ↓)** (目標: 65.0%)
- ① 教員だけがICT機器を使用するのではなく、生徒にも毎朝心の天気を入力させ、授業において Teams の活用を図る。今年度中に学習者用端末の更新があり、Windows から Chromebook に変更されたため、教員研修を行った。11月にICT教育の先進地域であるつくば市に教員2名が視察を行い、教員研修でその成果を共有した。
- 年度末の校内調査における「学習している内容がわかる、理解しやすい授業だ」に対して、肯定的回答をする生徒の割合は86.3%であり、前年度(90.4%)より若干減少した。
 - 学習者用端末利活用率は、
【月平均】
5月 59.8% → 6月 68.9% → 7月 70.8% → 8月 74.7% → 9月 % → 10月 % → 11月 % → 12月 %
【80%以上利活用した割合】
5月 0.0% → 6月 38.1% → 7月 23.1% → 8月 50.0% → 9月 60.0% → 10月 18.2% → 11月 77.8% → 12月 82.4%
である。
「授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする」という指標は、12月までで42.2%であり、目標を達成できていない。ただし、学習者用端末を更新した以降は、目標を達成する水準に到達している。
- ② 墨江丘タイムの日を年間19回、ノー残業 day を年間35回設定した。年次有給休暇の取得率は、59.5% (昨年度64.2%) であり目標を達成できなかった。

次年度への改善点【最終評価】

- ① 「授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする」という指標を毎月達成できるようにする。
学習者用端末の更新があり、Windows から Chromebook に変更されたため、Google Classroom の活用を検討する。
- ② 計画通りに墨江丘タイムの日やノー残業 day を実施する。
学校行事・学年行事の見直しを不断に行っていく。

(様式3)

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立墨江丘中学校 学校協議会

1 総括についての評価

今年度の大阪市教育振興基本計画をビジョン、方針とした学校の取り組みとして、運営を行った。本校のテーマである「いのちの教育」を柱として、地域、社会の資源をフル活用して、学校が子どもたちにとって必要な資源をコーディネートする役目として考え、様々な教育活動を展開した。

【安全・安心な教育の推進】については、概ね期待通りの目標を達成した。校内調査の数値目標も昨年度を上回っている項目も複数あるが、さらに学校生活の充実度、また学校の中での居場所づくりに効果がでた。個に応じた学習環境の提供を考え、完全個室のファーストペンギンルームを活用し、不登校生が教室に入れなくても社会とのつながりの場ができることを目的として設置した効果が今年度数名、教室に戻るなど大きな効果がでた。個別の対応から特定の仲間へのつながり、そして小集団へのつながり、学級へのつながりと段階を得て進めていくことが、学校として体系化しつつあり効果がではじめている。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】に関しては、1,2年生については、チャレンジテストにおいて、受験科目の1教科以外、大阪市、大阪府平均を上回りほぼ期待通りの結果であった。しかし、3年生についても、社会科以外の教科で大阪府の平均を上回った。今年度の学校の自己評価は概ね期待通りの目標を達成した。全国体力・運動能力、運動習慣等の調査では、男女ともに大阪市平均、全国平均を大きく上回っている。

【学びを支える教育環境の充実】では、昨年度比較として時間外勤務時間数の平均時間数も毎月昨年を下回っている。また、ノー残業デーや午前中授業までとした教育課程の変動時程、墨江丘タイムも年間19回、ノー残業デーも年間35回設定し、バランスを考えた運営で実施することができた。さらに、働き方改革を加速するために教育課程の見直し、45分授業時間などを盛り込み計画的に進めていきたい。年次休暇も、春休みを含めると目標数値を達成する見込みである。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：【安全・安心な教育の推進】

- 校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合 ◎**84.9%** (目標：80%以上)
- 不登校生徒の前年度との在籍比率 ◎**6.9%** (**3.6%**↑) (R5:10.5%)
- 不登校生徒の前年度との改善割合比率 ◎**34.5%** (**1.5%**↑) (R5:33.0%)
- 以下の生徒に対する校内調査項目における肯定回答割合の前年度との比較
 - 「学校のルールを守って生活している」 **96.6%** (**1.6%**↓) (R5:98.2%)
 - 「クラス・学校は楽しい」 **86.1%** (**2.2%**↓) (R5:88.3%)
 - 「普段から、あいさつを積極的にしている」 **87.9%** (**3.3%**↓) (R5:91.2%)
 - 「清掃活動などの班活動に協力し、校内美化に努めている」

	93.2% (0.4% ↓) (R5:93.6%)
● 「人を傷つけるような言葉や、行動に対して腹が立つ」	
	◎96.6% (6.1% ↑) (R5:90.5%)
● 「人それぞれの〈ちがい〉を大切にすることを学んでいる」	
	96.6% (0.1% ↓) (R5:96.7%)
● 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」	◎95.4% (3.2% ↑) (R5:92.3%)
年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】	
● 校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合	◎46.6% (6.5% ↑) (R5:40.1%)
● 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比	
2年生：国語… ◎1.04 (0.01 ↑) (R5:1.03) / 数学… ◎1.04 (0.07 ↑) (R5:0.97)	
3年生：国語… 1.01 (0.03 ↓) (R5:1.04) / 数学… ◎0.99 (0.01 ↑) (R5:0.98)	
● 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)	◎70.3% (目標：50%以上)
● 校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合	学校アンケート… 53.0%
● 全国体力・運動能力、運動習慣調査における、男女それぞれの合計得点	
男子： ◎45.14 (全国：41.86 大阪市：41.10)	
女子： ◎52.26 (全国：41.30 大阪市：47.51)	
● 校内調査における「朝食を毎日食べていますか」に肯定的に回答する生徒の割合	◎90.6% (目標：80%以上)
● 以下の生徒に対する校内調査項目における肯定回答割合の前年度との比較	
● 「学習している内容がわかる、理解しやすい授業だ」	90.4% (0.3% ↓) (R5:90.7%)
● 「宿題を含め、予習復習など家庭、また学校外での学習をよく行っている」	◎82.2% (0.3% ↑) (R5:81.9%)
● 「自分にもいいところがある」	◎84.5% (5.7% ↑) (R5:78.8%)
年度目標：【学びを支える教育環境の充実】	
● ICTを活用した授業における全教員ののべ時間数	R6.02.10 現在：9051h (R5:9267h)
● 全授業日における、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数の割合	R6.1 月末 4.2% (目標：80%以上)
● 年次有給休暇を10日以上取得した教職員の割合	R6.02.12 現在：64.2% (目標：80%以上)
● 墨江丘タイムの日数、ノー残業Dayの日数	◎墨江丘タイム…16日 (目標：6日) ◎ノー残業Day…35日 (目標：8日)

3 今後の学校園の運営についての意見

・学習面については、以前、理科、数学の点数が平均以下だったもののほぼ、改善され社会、英語といった教科で課題点が変わった。各先生方の経験年数が少ないことや、他教科も含めて次年度、授業研究の研修の仕組みを見直し、授業者の授業改善の視点を全教職員で考えるなどの研究協議を進めていきたいと考えている。(学校教職員の授業力育成・人材育成について)

・今年度は学校の教区テーマの中に「探究」を柱として学校運営を進めた。3年計画で進めてきた隠岐の島町の島おこしプロジェクトは、島根県の行政機関、町長も巻き込んだ壮大なプロジェクトとなり、沢山の不安もあったものの教職員、生徒、送り出していただいた保護者からたくさんの感謝の言葉をいただいた。また、地域探究学習では、地域の飲食店とコラボして、生徒が考えたメニューを実際に商品として調理していただくなど、生徒たちにとっても学び多い時間となった。また文楽劇場等のコラボ授業など、日本の伝統文化に触れ、歴史ある日本文化を生で学ぶ機会をいただいた。今後、探究学習の成果を可視化し、どのような力、どのような変化があったのかを数値として可視化し、学校運営の中で、社会に生きる力をつけるために、産官学の連携をさらに強化していきたいと考えている。教職員のワークライフバランスについても、学校協議会でご意見をいただくなど、地域にとともに学校運営をさらに継続していきたいと思う。